



MARIANISTES

—— マリアニスト ——

神のはからい？

マリア会 高田 裕和

シャミナード神父様の理想に初めて触れたのは、高校2年が終わろうとする頃、マリア会紹介パンフレットでした。当時の私は、朝から晩までクラブ活動に明け暮れ、同時に暇さえあれば教会に入り浸り、同世代の仲間と教会活動に熱中していました。教会は、私たち高校生にとって、無理強いされて行くところではありませんでした。かえって、各自が自分の持っている才能を、多岐にわたって発揮する場所でもありました。当時を振り返って見ると、教会の中で我々の存在は、軽視できない存在であったと思います。同時に、大人たちも私たちを、実践を通して教会の中で育てていたのだと思います。今では当たり前前の発想ですが、「自分たちの教会は、自分たちの手で。」まさにその実現に向けて歩み始めていた途上だったのです。時が移り、共同宣教司牧が現実となった今、他の小教区とは違った対応ができるのは、当時からの実践の結果だと思っています。そういう教会の中で育った私にとって、シャミナード神父様が理想とした事柄は、興味深いものでした。

「自分の持っている才能をすべて使って、マリア様の協力者として働く。」「一つの限られた事業に拘らず、社会の必要を識別し、それに応えていく。」「司祭も修道士も同じ権利と義務を果たしながら、ともに働き、生きる。」今から30数年前のことですから、文言は異なっていたかもしれませんが、またマリア会員として親しんだ表現になっているかもしれません。この三つのフレーズ、あえて言えば、最初の二つのフレーズが私に与えたインパクトは大きかったと思います。レジオ・マリ

エを通してマリア様との関わりを教えられていたことも、「マリアの協力者」という言葉に引かれたのかもしれませんが。自分の持っている才能を神さまのために使う。それも、マリア様の協力者として、その才能を使っていろんな可能性に開かれている。そういう理想の上に成り立った修道会がある。幼い時から司祭になりたいと思っていた私にとって、この仲間たちとの活動のように、一人ひとりの力を合わせて生きる生活が可能だと知り、教区司祭以外の道があることを知った時でもありました。

京都で生まれ育った私にとって、普通ならばシャミナード神父様やマリア会のことを知ることはなかったのだろうと思います。後で知ったことですが、幼少時から関わっていた人々が、いろんな意味でマリア会と関係があったと知り、不思議さに驚きました。あの小教区共同体・信仰共同体で育てられたことが、マリアニストとしての私に大きな影響を与えているのは確かなことです。

あれから30数年を経て、今年マリアニストとして誓願宣立25周年の時を迎えることができました。「あなたね、マリア会だからあなたを受け入れてくれたのよ。」あるシスターの言葉です。マリアニストであることに感謝です。私の信仰を育んでくれた信仰共同体に感謝です。頂いた恵みは分け与えたいものです。自分の頂いた才能を用いながら、現在ゆだねられている信仰共同体育成のために努めたいと思います。私をこのように導いてくださった神様のはからいに委ね、マリアニストらしく。

海外だより

フィリピン訪問記

マリア会 松本 幸徳

今夏、市瀬師と二人で、初めてフィリピンを訪れる機会に恵まれました。首都マニラではなく、ダバオに足を向けました。

ダバオは、世界で一番行政面積の広い市として知られています。総面積は東京23区の約4倍。約80万人が暮らすフィリピン第2の大都市。マニラ港の4倍の広さの良港に恵まれ、木材や農産物の積出港として栄えていて、南部フィリピンの経済の中心としての役割を果たしています。マニラやセブ・シティのような混沌はあまり見られません。町はよく整備されていて、緑も多く、清潔な印象を受けます。

近年、フィリピンの国民総生産は、緩やかですが確実に上昇しています。GNP上昇＝生活が豊か、政権安定と考えがちです。しかし、どう見ても彼らはまだまだ貧しく、政権が安定しているようにはみえません。その原因の根底にあるのは、国民が等しく富むのではなく、利益が一部の人々にしか還元されていない点にあるようです。

フィリピンは、ローマカトリック信者が80%を占める、アジア随一のキリスト教国です。普段から教会へ行き、毎週日曜日の朝には町中の人々がミサに与っています。パブロ師の指導の下、志願者が4名、修練者が3名ダバオで生活しています。また、会員の2名が近くの路上生活者の介助施設で働いています。

今回の旅が実現したのは、市瀬師の親友であるパブロ師のお陰です。

パブロ師にサラマット！



韓国巡礼…その1…

レジナ・チェリ 古畑久美子

無事韓国の金浦空港に着いた私達を迎えて下さったのは、明るく弾んだ声、シスター達の手を振る姿、そしてちょっぴり恥ずかしそうに頬を赤く染めた富来神父様の笑顔でした。それぞれの思いが詰まった韓国巡礼のスタートです。

最初の巡礼地は、パウロⅡ世やマザー・テレサも韓国を訪れた時に最初に足を運ばれた聖地『切頭山』です。1866年に起こったカトリック教徒の大量虐殺事件“丙寅迫害”で多くの信者が殉教した地であり、その際信者の首を切って、頭を漢江に投げ捨てたという話から『切頭山』と呼ばれるようになったとのこと。その数のあまりの多さに川が真っ赤に染まったという言い伝えも残っています。また、この地には、日本にも縁の深い“ジュリアおたあ”の墓もあります。殉教博物館では、日本からの巡礼団だと知って、暖かく親切に迎えてくださり、館内の説明を熱心にしていただき、本当に有り難く、感謝しました。その後、切頭山巡礼聖堂において、巡礼者の為のミサに与りました。無事韓国の地に着いたことを感謝し、これから始まる4日間の巡礼の無事とそれぞれの地で信仰の道を貫いて亡くなった方々の安らかな眠り、心の平安、そして、私達自身の信仰がより深くなるようにと祈りました。

言葉は分からなくても、ミサは万国共通であり、日本語の「毎日のミサ」を持参したので、なんとか流れはつかめました。ただ、せっかくの神父様のお説教が理解できなかったのは大変残念でした。

(次号へつづく)



連載 マリアへの奉獻（7）

マリア会 富来 正博

《聖母マリアの奉獻》（つづき3）

イエスをとおして父なる神のみ旨を覚
り、実行に移そうとされたマリアはその全
意識をイエスに集中しておられました。世
の母親でその意識をわが子に注ごうとし
ない人はいないでしょう。しかしそれはわ
が子を愛し、守り、その欲求に答えようと
する能動的な働きが中心だと思ひます。勿
論、わが子を愛することから感じる大きな
喜びや慰めは受身的であり、報酬とも考
えることができるかもしれません。聖母マ
リアが他の母親と同じように人間的情愛の
中でイエスとのかかわりを生きられたこ
とは言うまでもありません。しかしマリア
はさらに、父のみ旨を啓示されるお方と
してのイエスに対しておられました。イエ
スの弟子としての生き方を徹底して生き
ていかれたのです。

カナの婚宴の席で「ぶどう酒がなくな
りました」と言われたマリアのお姿の中
に、弟子としての姿勢が現れていると考
えることはできないでしょうか。そこには母
親の親しさから子に「何かしてください」と
願っている姿ではなく、「この人が何か言
いつけたら、そのとおりにしてください」
との言葉の中に現れる信仰、お告げのとき
に「お言葉どおり、この身に成りますよ
うに」と表明された信仰を生きるマリアの
お姿が浮かび出ています。結果がどのよ
うなものであれ、神のみ旨が行われるこ
とを求め、そして神が常に人々の善を望
んでおられることに対する信頼を表現す
るマリアのお姿は本当に感動的です。

マリアは、イエスの最初のしるしの最
初の証人となる宴会場の召し使いたち
に、その瞬間だけでもイエスの弟子であ
ることを求められます。「この人が何か
言いつけたら、そのとおりにください。」
イエスの弟子とは、イエスが言いつける
ことを

忠実に実行する人のことです。マリアニ
スト家族の創立者シャミナード師は、こ
のマリアのお言葉の中にイエスの弟子と
なるようにとの呼びかけを聞き取って
います。そしてマリアニスト家族のモ
ットーとしてしばしば引用していま
した。

グループ紹介

『MARIANISTES』編集部

上野 圭一

本紙『MARIANISTES』は今回で93号を
数えます。創刊号は1993年5月15日
発行ですから、15年という時が経過
したことになります。発刊の経緯は、
信徒のグループからの「マリアニ
スト家族が互いに情報交換し、絆を
深めるための機関紙が欲しい」とい
う希望によるものでした。そこで
自然と、編集、印刷、配布といった
作業すべてを信徒ボランティアの手
で行うという流れになりました。こ
うして生まれたのが編集部です。発
足当初は、設備が整わず、手作業で
行う比重が大きかったのですが、今
でも活躍している「折り機」は故・
梶川宏神父様からの、「コピー機」
は皆様からの寄付によって導入さ
れました。感謝！

現在は、2ヶ月に一度、6、7人が
集まって町田修道院で一連の作業
と編集会議を行っています。

国法の原則を持ち出すまでもなく、
検閲など絶対にあってはならない
ことですが、この点でも「MARIANISTES」
はリベラルな姿勢をほぼ堅持して
きていると言えるのではないでし
ょうか。これは、編集長以下、活
動主体の大半を信徒の手で担って
おり、それに対して、指導司祭（
現在は清水一男神父様）が適宜
アドヴァイスするというシステム
に拠るところが大きいのと思ひ
ます。

願わくは、創刊以来の風通しのよ
い紙面を維持していくことができ
ますように。そして、何よりも、
信徒、修道者双方にとって、さ
さやかな心の拠り所、主張の場
であ

り続けることができますように。

以上を旨として、これからも先輩編集員諸氏と共に歩んでいきたいと思えます。当面は、前編集長、故・小原忠郎氏の思いでもあった100号までを皆様の許にお届けするのが目標です。ご支援をよろしくお願い致します。また、投稿も大歓迎です。お待ちしております。

世界マリアニスト祈りの日
★2008年10月12日★

今年は、ブラジルのアパレシーダの聖母およびその巡礼地に心を向けて祈ります。



MLCでは、この日11時から、シャミナード修道院聖堂においてミサと祈りの集いを行いますので、みなさまのご参加をお待ちしております。（日本MLC執行部）

◆◆ 編集後記 ◆◆

8月は平和について考えさせられる月です。8月6日のヒロシマの原爆投下、8月9日のナガサキの原爆投下、そして8月15日の終戦記念日。

私は戦争体験がありませんが、子供の頃に、被爆した人のお話とか、地方の都市ですが、空襲の時の悲惨な状況などを身近な人から聞き、子供心に怖さ、恐ろしさ、不安を感じていました。

終戦63年を迎え、戦争や原爆を体験された方々の高齢化が進み、ただただ沈黙していた人たちが、自分の体験、平和の尊さ、戦争の悲惨さを次の世代に残そうとして、いのちある限りがんばっておられる姿を見て、大きな力を感じます。

8月15日は聖母の被昇天の祝日。より一層マリア様に倣って歩んでいきたいと思っています。（K. S.）

お知らせ

MLC 黙 想 会

下記により、黙想会を行います。
お誘い合わせの上、ご参加ください。

日時：11月28日（金）～29日（土）

指導：朝山宗路師（マリア会）

「マリアの素描について」

Sr. 田中昌子（汚れなきマリア修道会）

「主よ、来て下さい」

場所：町田修道院

費用：一泊参加（4食付）7000円

一日参加（昼食付）1500円

両日通い参加（昼食付）3000円

※参加ご希望の方は、各グループ代表を通してお申し込みください。

MLC 霊生部・石井

お礼とお願い

「マリアニスト」をご愛読いただいております皆様方の日頃のご協力とご理解の賜物により、編集・発行作業を継続することが可能となっておりますこと衷心より感謝申し上げます。

つきましては、この「マリアニスト」の印刷、郵送などに経費が必要となります。

編集部では節約しながら作業を進めておりますが、本紙の趣旨にご理解頂ける方からの暖かいご支援が頂ければ幸いです。

100号の節目に向け、これからも努力していく所存です。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。 編集部

発行 『マリアニスト』編集部

気付 「汚れなきマリア修道会」

町田修道院 清水一男神父

〒194-0032

東京都町田市本町田3050-1

TEL 042(722)6301

FAX 042(725)6317

ホームページ

<http://www.marianist.jp/>